

新元号は「令和」に決定！！

2019年4月1日（月）、新元号が「令和（れいわ）」に決定しました。

「令和」の典拠は、『万葉集』巻五、梅花の歌 三十二首并せて序 にある一文です。

引用文は、「初春令月、氣淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薫珮後之香」であり、この書き下し文は「初春の令月にして、氣淑（きよく）風和（かぜやはらぎ）、梅は鏡前の粉を披（ひら）き、蘭は珮後（はいご）の香を薫らす。」です。

この部分の現代語訳の一例は「時あたかも新春のよき月、空気は美しく風はやはらかに、梅は美女の鏡の前に装う白粉のごとく白く咲き、蘭は身を飾った香の如きかおりをただよわせている。」です。特にここでの「令」の字は「物事のつやがあるように美しい」の意だそうです。

私は、新元号が「令和」と分かった瞬間に、音と姿がとても美しいと思いました。

大ベストセラー『伝え方が9割』の著者である、コピーライターの佐々木圭一さんは、メルマガとFacebookでこのように書かれています。

「コピーライターの視点からすると、「令和」というのは、まずは文字の形として、とてもキレイだなと思います。縦書きにすると、ちょうど、「令」が矢印の先「↑」のような。未来に向かって、上につきすすんでいく、そんな感じがします。

「令」と「和」文字の意味からみますと、「緊張感」と「やわらぎ」の正反対語が入っています。「令」とは、一般的によくつかうのは「命令」。そこにある緊張感、意思、覚悟を感じます。「和」とは、まさに「平和」。覚悟をもって、平和をつくる。人と人のつながりを大切に。そんなニュアンスを感じます。」

さすが、コピーライターの佐々木さんです。目の付けどころが違います。「↑」の発想はすごいと思います。佐々木さんとは、2017年8月、東京での「第6回アクティブ・ラーニング・フォーラム」で一緒してから、お付き合いさせていただいています。

さて、5月1日から新元号「令和元年」のスタートです。並木中等教育学校も新たな一歩を踏み出したいと思います。みなさん、どうぞよろしくお願いいたします。



◆上の写真は、2017年3月行った香川県高松市の栗林公園の梅です。
水戸の「偕楽園」の梅でなくて、申し訳ありません(*^_^*)！！